

近現代史(33) 世界分割と列強対立③「列強の二極分化とバルカン危機」

○今回のポイント

バルカン半島を支配したトルコが衰退する中で小国のナショナリズムが昂揚。帝国主義ロシアのパン=スラブ主義と帝国主義ドイツのパン=ゲルマン主義が激突し、戦争の危機が逼迫した。

(1)いわゆる3B政策

①1890年 ドイツ、ロシアとの[1. 再保障条約]の更新拒否

↓

②1891 [2. 露仏同盟] ⇒ ロシア、工業化の資本を得るために同盟

↓ フランスは外交的孤立を解消。列強関係は流動化

③ドイツとイギリスの対立

・ [3. バグダード鉄道] 建設推進

・ [4. 3B政策] …ベルリン、ビザンティウム、バグダードを結ぶ → イギリスの3C政策に対抗

・ [5. 建艦競争] → イギリスとの間で海軍拡張競争を展開。

(2)三国協商

①イギリス外交の転換

・ 従来：[6. 光栄ある孤立]

→東アジアにおけるロシアの進出に対抗・・・1902 [7. 日英同盟] を結ぶ。

→ドイツの挑戦にそなえる・・・1904 [8. 英仏協商] を成立。

②ロシア外交の転換

・ 日露戦争での敗退→東アジアからバルカンへの進出策に転じる→独逸と対立

→イギリスと和解・・・1907 [9. 英露協商]

英仏露は独逸を共通の脅威とみて、協力してそれぞれの植民地や勢力圏を守ろうとする。

三国協商

①[10. イラン]における両国の勢力範囲を決める

②[11. アフガニスタン]はイギリスの勢力範囲

③[12. チベット]には不干渉 → 中国の主権

(3)ドイツ陣営 VS イギリス陣営

①イタリアの動き

・ 三国同盟の一員だったが・・・「13. 未回収のイタリア」をめぐって伊獨間で対立

↓

・ フランスに接近

イタリア統一戦争後もオーストリアに残留した地域。南チロル・トリエステなど

②ドイツの動き

・ 三国同盟からイタリアが離れていく → ドイツは同盟国[14. オーストリア]との安定重視

↓
・ イギリスとドイツをそれぞれの中心とする二つの陣営に分かれ、1910年以降軍拡競争。

(4)-1 オーストリアのバルカン進出

■オーストリアは多民族国家=国内にスラヴ系民族を内包 ←[15. パン=スラヴ主義]影響

↓

■オーストリア、[16. セルビア]などスラヴ系諸国に対抗し、バルカン半島進出

↓

■1908 [17. 青年トルコ革命]勃発→ベルリン会議で管理権を得ていた[18. ボスニア・ヘルツェゴビナ]併合。※青年トルコ革命に乗じて自治国ブルガリアはトルコから独立

(4)-2 バルカン戦争

●バルカン戦争(1912~13年)



■1912 [19. バルカン同盟] 結成(ブルガリア・セルビア・モンテネグロ・ギリシア)

↓

※1911~12 [20. 伊土戦争] →バルカン同盟はトルコ侵攻へ

↓

■1912~13 第一次バルカン戦争
 バルカン同盟 VS[21. トルコ] の戦争。トルコが敗れ、ロンドン条約でイスタンブルを除く全ヨーロッパ領とクレタ島を奪われた。

↓

■1913 第二次バルカン戦争
 第一次バルカン戦争での[22. ブルガリア]の取得領土が広大であるとしてセルビア・モンテネグロ・ギリシアが侵攻。ルーマニアとトルコもこれに加勢した。ブルガリアは多くの領土を奪われる。

↓

■敗戦国のブルガリア、トルコ →[23. ドイツ]に接近。

(4)-3 ヨーロッパの火薬庫



列強の二極化によるバルカンでの民族主義対立
 [24. パン=ゲルマン主義]VS[25. パン=スラヴ主義]

↓

バルカンにおける勢力変動による列強対立の悪化
 [26. 独墺土勃]VS[27. 英仏露セルビア・モンテネグロ]

↓

[28. ヨーロッパの火薬庫]